

第34回田山ジュニアサマージャンプ大会が開催!!



①／46.0メートルを飛び3位入賞の工藤琉翔選手(安代中3年) ②／37.0メートルを飛んだ山本宇宙選手(安代中3年) ③／27.0メートルを飛んだ伊藤柚佳選手(西根中1年) ④／25.0メートルを飛んだ伊藤稜牙選手(松尾中2年) ⑤／16.5メートルを飛び5位入賞の成田元気選手(田山小4年) ⑥／8.5メートルを飛んだ関葉和選手(安代小3年)

INTERVIEW



夢につながる舞台。整った環境で質の高い練習を

スポーツ特別指導員
三ヶ田 礼一さん



成長を感じられてうれしい。
もっと大きく飛びたい

松尾中学校2年
伊藤 稜牙選手

Qサマージャンプの良さとは？

夏でも冬と同じような感覚でジャンプ練習ができ、雪よりもけがの心配も少ないためジャンプを始めるきっかけにしやすいです。上達するためには、飛ぶ回数を増やすことが大切です。ただやみくもに飛ぶのではなく、理想の飛行姿勢や着地など考えながら飛ぶことが重要です。

Q選手たちに一言

市には、年間を通して練習する環境が整っています。世界で活躍する先輩も同じ舞台を経験しています。楽しみながら練習に取り組んでください。

Q始めたきっかけは？

二つ上の兄がやっていて楽しそうだなあと、今年の6月から始めました。当初は恐怖心などがあり苦労しましたが、先月の大会よりも、距離が伸びているので、成長を感じられてうれしいです。

Q今後の目標は？

始めたばかりなので、アプローチの姿勢などまだまだ課題は多いですが、兄や小林陵侑選手を超えられるようにたくさん練習し、仲間たちと切磋琢磨していきたいです。

第34回田山ジュニアサマージャンプ大会は8月1日、県営スキージャンプ場で開かれました。
本大会は、競技力の向上と選手の発掘、拡大を図ることを目的とし、地元住民の協力を得て昭和61年から始まりました。2大会連続でノルディック複合種目のオリンピック代表となった永井秀昭選手や日本人男子初のスキージャンプワールドカップ総合優勝を果たした小林陵侑選手など、世界で活躍する市出身選手も過去に出場している歴史ある大会です。
本年度は、多くの大会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる中、手指消毒や競技中以外のマスク着用を徹底するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行って開催。県内外から参

加した選手たちは、持てる力を十分に発揮した飛躍で会場を沸かせました。
大会で得た経験や反省点を胸に刻み、冬のシーズンに向け、競技の未来を担うジャンパーたちの挑戦は続きます。

30年以上の歴史を持つ「田山ジュニアサマージャンプ大会」が2年ぶりに開催され、県内外から35人の選手たちが参加しました。本号では、選手の姿や声、関係者の思いを届けます。
■問い合わせ先 文化スポーツ課
スポーツ推進係 ☎ 内線1147

■市内参加選手の大会結果

(敬称略、●内の数字は順位)

- 〔中学生の部 ミディアムヒル〕
③ 工藤琉翔(安代) ● 9 山本宇宙(安代) ● 15 伊藤柚佳(西根) ● 17 伊藤稜牙(松尾)
〔小学4年生以下の部 スモールヒル〕
⑤ 成田元気(田山) ● 8 関葉和(安代)